

広報

きらめき



第16期生 第3号

- ① 自治会長挨拶
- ② 事務局より
- ③ 16期修学旅行行程
- ④ 16期生修学旅行紀行文
- ⑤ クラブ活動報告
- ⑥ 自由投稿
- ⑦ 編集後記

伊豆フルーツパーク

自治会長 挨拶

歴史・郷土学部 塩入 肇

『修学旅行随想記・下田港ロマンに魅せられて』

歴史の魅力はどこにあるのか？ 史跡を訪れ、そこに佇み、しばしそこに漂う雰囲気、そこに佇み、酔いが覚めやらぬうちにスマホシャッターを押し続ける。雰囲気、馴染んだところで出土品や展示品にイメージを膨らませる。この繰り返して日がな逍遙が続き、その土地の自然に親しむ。そこに日本の原風景体験が重なれば、酔いのボルテージは最高潮に達する。見知らぬ人と交わす会釈さえ酔いに花を添える。こんな普段着の歴史探訪を重ねていると、次のような気づきに辿り着き、人は「夢とロマン」を実感する。

- ① 「人を惹きつけるものは何か」、その正体について合点がいく。
- ② この世の中、功績が三代続けば相應の力リスマになる。歴史は三代を遥かに超えて今にある。その力リスマベールを取り去った視点で見ると、歴史の主人公に等身大目線の「人間」を感じる。
- ③ 「渦中の人は結果が分からない。しかし歴史を紐解く人は、結果が分かっている。

いる。「この歴史の持つ矛盾を超えたとこころで何か腑に落ちる。」

閑話休題（普段着の歴史を謳歌するために）

19世紀半ばの欧米は、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、ロシアを中心に電力や石油を動力源として鉄鋼、電機、化学などの重化学工業が急速に発展する。第2次産業革命が起きたのである。その結果、国内の生産力が急速に高まった。それだけでは済まない。この恩恵がもたらした自国消費を上回る余剰製品の売り先が必要になる。売るにあたっては、自国の最大限の利益を獲得すべく軍事力を背景に脅しをかけながら彼らの言いなりになる国に向けて我先に進出する競争が不可避となる。いわゆる帝国主義の台頭である。

欧米帝国主義諸国が狙いを定めた格好の獲物が中国・インドを筆頭とするアジアであり、その最後の標的が幕末の日本であったわけである。日本進出のきっかけは、突如の黒船の下田港への来航（1853年である。「泰平の眠りを覚ます上言撰（蒸気船）たった四杯で夜も眠れず」という幕末日本人の驚き振りである。この驚きが引き金になって開国を巡って勤皇佐幕の大騒動が勃発し、近代日本に向けての動きが大ブー

クするのである。

きらめき市民大学16期生の私たちの修学旅行のメイン訪問地である下田。その現況は、近代日本の夜明けや血腥い騒動の時代を知らないかのようにひっそりと静まり返っていた。日本を変える大舞台の歴史が無かりせば、小さな侘しい漁村の風景に過ぎない。しかし普段着の歴史を愉しむには、それがかえって郷愁を誘う。日米交渉の場となった*古刹情緒漂った仙寺、その周辺を異国の香りがむせるジャスミンが所狭しと咲き誇る。ここを起点に巡る散歩道には、随所に幕末の要人の足跡が残る。まさに普段着の歴史を愉しむ素材に事欠かない。今回の修学旅行を契機としていつかまた再訪したい町である。何よりも普段着の歴史を謳歌するために…。(*古刹：由緒ある古い寺)

事務局より

「転入の挨拶」

戸口 好久



4月1日の人事異動により事務局長に就任いたしました戸口です。日頃より皆様にはきらめき市民大学の事業・運営に対

し、「ご理解・ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

今年は、83名の方が入学されました。そのうち、再入学の学生は55%を超えています。今後さらに多くの方に当市民大学を知っていただくために、皆様のお知恵をお借りしたいと考えています。

授業のほかクラブ活動や自治会活動、学園祭等皆様が楽しく学園生活を送れるよう事務局といたしましても精一杯お手伝いさせていただきますので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

「じじら事務局です。」 矢部 良明



きらめき市民大学の力
リキュラム編成とその他
雑用を担当しています矢
部です。仕事上、きらめ
き市民大学で講義をして

くださる講師の先生方とお話をさせて頂く機会が多いのですが、「きらめきの学生さんは、本当に素晴らしいですね。積極的に熱心にお話しを聴いてくれますよ。」とお褒めの言葉をたいへん多く頂きます。これも学生のみなさんが学園生活をいきいきと充実して過ごされていることの証だと思えます。これから学園祭、課題研究発表会、卒業式

と「あっ。」という間かもしれませんが、事務局の職員一同、みなさんが楽しい学園生活を過ごせるよう努めて参りますので、よろしくお願いいたします。

16期修学旅行行程

企画委員一同より

国際・文化学部

黒鳥 征治

平成30年度 第16期生の修学旅行は伊豆と決まりました。企画委員10名は各々の担当係を責任をもって度重なる打ち合わせを行い、最大級行事の全体準備を整えました。

今回はあい見積もりの結果初めての旅行会社との契約となりました。初めてということもあり、それなりの新規サービスが多々受けることが出来、予算的には満足な結果となりました。参加人員は戸口事務局長と矢部主任を加え67名(年々減少)で大型バス2台に各学部が2班に分かれての乗車となりました。

行程は1日目、まずは小田原城へ向かいました。見学の途中、まさかのゲリラ豪雨に見舞われ、ずぶ濡れ状態になった人が数人おりました。そのため時間を要し次の見

学地は取りやめとなり先行き不安を抱きましたが、間もなく雨も上がりその後の行程に支障は起きませんでした。湖畔荘の稀にみる昼食後、来宮神社そして程よく酔いながらのJA伊豆みかんワイナリーを経て宿泊先のホテル伊豆急に到着。入浴後の夕食・宴会となりました。宴会アトラクションは年々上質にエスカレートし、今年は特に大宴会となりました。何とアトラクションの踊りにホテルの従業員が一緒になって参加しエンジョイしてくれたことは、私の記憶では類を見ない出来事で大変うれしいと同時に大盛況となったことは、この上ない喜びです。ホテル側の十分な教育とサービス精神には敬服です。

2日目は、ジャスミンの香り漂った仙寺とペリーロードの散策、次に健脚を確かめるがごとき浄蓮の滝へ、かなりの疲労となりました。しかし次の昼食兼伊豆フルーツパークそして三島スカイウォークで元気を取り戻し、また、雄大な橋と感動の景色に疲れも癒されました。

こうして今年の修学旅行は、楽しく有意義なものとなることができましたのではないかと企画委員一同の思いです。これも参加者全員の協力の賜物と感謝いたします。



JAみかんワイナリー



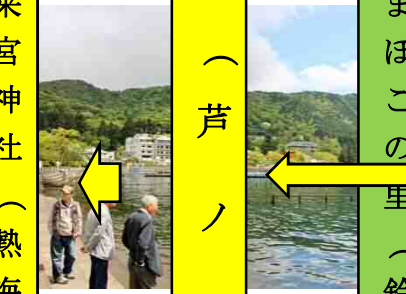
昼食（芦ノ湖）



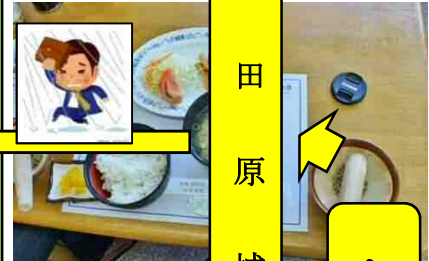
小田原城



来宮神社（熱海）



かまぼこの里（鈴廣）



きらめき市民大学

ホテル伊豆急泊（下田市白浜）



5月10日（土）



東松山市きらめき市民大学 16 期修学旅行行程

5月11日（日）



了仙寺・ペリーロード



昼食（伊豆フルーツパーク）

スカイウォーク（三島）

ジャンボひものセンター



浄蓮の滝



16期生修学旅行紀行文

くらしと健康学部

蓮 通玄



修学旅行の目的は何だろう。そして、そ

の意味するものはと考えていた。我々は、高齢化社会に生きている。行程表を見て、その発見に向かった。最初に向かったのは小田原城である。ここを訪れるのもしばらくぶりである。北条氏の不運に想いを抱きながら天守閣を出ようとしたら雨になっていて、身も心も濡れながらバスに戻る。時間のロスもあり昼食後、来宮神社に向かう。ここはパワースポットになっており大楠の巨木の周りを1周すると寿命が1年延びるという伝説があり、回ろうとしたが欲深い己に恥じて止めた。次に、伊豆みかんワイナリーで試飲したが、無料なので飲みすぎた。いつもながら、食に対し卑しい我はなさない。ホテルに到着する。

6時から宴会となる。くらしと健康学部はハッピー体操と決まっていた発表する。惜しみない拍手に、なぜか恥ずかしい。次に国際文化学部の発表となる。チャラチャン踊りとなり、全員参加の大いなる盛り上がりを見せる。最後に、歴史郷土学部の歌踊りの演技は本日のハイライトとなり後世に語り継がれるであろう、素晴らしいものだった。会場に入ってきたメンバーを見た時、ビックリして体が硬直した。演技も良かったが、随分練習したのだろうと思うと

並々ならぬ意気込みが感じられた。この場の余韻はしばらく続いた。

2日目は、ペリーとの下田条約が結ばれた了仙寺を見学し、ペリーロードを歩いて下田公園を散策する。次に向かったのが、浄蓮の滝である。西牧さんの「浄蓮の滝」を聴きながら、階段を降りて滝を見に行く神秘的な滝だが、素晴らしい歌の影響で心は石川さゆりの「天城越え」である。山の名は単純に付けられるが、滝の名は違う。この滝の名も素晴らしい。その後、昼食、イチゴ狩りを楽しむ。ここでも小生の食い意地這った根性が牙をむく、そのつど自己嫌悪に悩む。

2日間の旅行は、大変充実した記憶に残る楽しい旅であった。企画委員会の皆さんには感謝申し上げます。え？ 最初の話はどうしたって、それは年をとってもまだまだ出来る、楽しいこともある。

人生「不楽是如何」かな。

国際・文化学部

池田 豊

修学旅行なんて何年ぶりだろう。高校生以来だと思つ(半世紀ぶりか??)。あいにくの雨も心はワクワクしながら、東松山駅西口に向かった。

今回の旅は伊豆下田。きらめき市民大学を7時45分出発した2台のバスは、東松山駅、つづいて高坂駅で仲間を乗せ、鶴ヶ島ICから関越高速に乗り、狭山PAで休憩し、幹事さんの用意したおつまみを食べ、ビール、ジュースを飲み、歓談、和やかな雰囲気の中、最初の見学地である北条氏の居城であった小田原城へは予定時刻より25分ほど遅れ10時40分に到着。空模様は曇ってはいたが、雨の降る気配は全く感じなかった。ところが見学が終わるころに急に雲行きが怪しくなり、バスへと走って向かったが雨に濡れてしま



った。雷鳴がとどろき予想外の激しい雨となった。10名近くの人がバスに戻れなくなってしまう。(雨女、雨男が晴れ女、晴れ男より多かったのか?)、幹事さんが傘を持って迎えに行った。お疲れ様でした。

突然の雷雨により小田原城の出発が1時間ほど遅れ、次の予定地かまぼこの里(鈴廣)へは寄らず、昼食場所である湖畔荘に直行し、ワカサギのフライ定食(ふりかけご飯ワカサギフライ添え??)であっさり昼食をすませた。その後、パワースポットである来宮神社を参拝し、JA伊豆みかんワイナリーで見学と試飲し、初日の観光を無事に終えホテルに17時に到着した。

ホテルでは先ず、露天風呂に入り疲れを癒した。18時からの宴会は2時間の飲み放題で十分にビールを飲んだ。学部別余興では「くらしと健康学部」は、ハッピー体操を行い、「国際・文化学部」はチャラチャン踊りを披露した。チャラチャン踊りはノリのよい楽曲なので他学部の皆さん、添乗員さん、仲居さんまでも一緒に踊り、会場は大盛況であった。

「歴史・郷土学部」は新演目で、黒装束の人あり、女装した男性あり、大胆にセクシーに踊り、このサプライズ出し物は圧巻

であった。楽しかったなあ。

2日目の朝、4時40分頃、カーテンを開け窓の外を見ると水平線より朝



日が昇ろうとしていた。部屋の仲間と散歩に出て、その日生まれた太陽が、水平線から顔を見せ、ゆっくりゆっくりと昇っていく様子は、明るい未来を感じさせ、今日も良い旅になる予感がした。最高の朝日を見るのが出来た。2日目の観光は、了仙寺(下田条約を結ぶ上で、交渉を行ったところ)から始まり、境内にはアメリカジャスミン1000株ほどが植えてあり、花の色がカラフルで強い香りが漂っていた。

次にペリーロードを散策した。江戸時代から続いている建物、街の風情などが残っていた。浄蓮の滝でマイナスイオンを浴び、伊豆フルーツパークで昼食とイチゴ狩りを楽しみ、三島スカイウォークでは野球評論家に遭遇し、ジャンボ干物センターではお土産を買い、バスの中では豪華景品のビンゴゲームを楽しみ、狭山PA、高坂駅西口、東松山駅西口18時着と予定より30分ほど早く帰ることができ、学部を越えて親睦が図れた楽しい修学旅行だった。



5月10日修学旅行出発の朝は残念ながら本降りの雨。きらめき市民大学、東松山駅、高坂駅の集合場所で2台のバスに分乗して出発。

途中1回の休憩を入れて小田原城に到着。このころは雨も止んでいましたが集合写真を撮って、天守閣を一回りし、城から出た時にはポツポツ降っていた雨が急激に強く

なり、途中で東屋を見つけて皆で雨宿り20分程足止めをくっただろうか、残念ながら小田原城は雨にかすんでしまいました。芦ノ湖で昼食、このころは雨も上がりきれいな青空で木々の緑も鮮やかでした。

次の訪問地、来宮神社に樹齢二千年の大楠が圧巻でした。「長寿の神木・成就の神木」とも言われ、大楠を一周すると長生き出来るそうなので一周してパワーを頂きました。珍しいみかんのワイナリーの見学をしてから、宿泊先のホテル伊豆急へ向かいました。

18時からの懇親会では学部別のパフォーマンス、尺八の伴奏で秩父音頭を楽しく踊り、カラオケの懐かしい歌に聞きほれ、ホテルの仲居さんも絶賛して頂けるほど素晴らしい盛り上がり、親睦が深まった会となりました。

翌日は朝から晴天に恵まれ、向かった了仙寺はアメリカジャスミンの花の香りに包まれる中でお参り、見上げると「了仙寺調練の囀」がかかっています。この庭にペリー提督率いる軍隊が集結したのを見て、当時の下田の人々はどれほど驚いたことか。了仙寺はペリー艦隊の応接所ともなり歴史がこの小さなお寺で動いたんですね。黒船でやってきたペリー提督が、了仙寺で日米

下田条約締結の為に進行したことから名付けられたペリーロードを散策。

その後移動、長い階段を下りて浄蓮の滝へ、前日の雨で水量も多か



ったようでマイナスイオンを沢山浴びて、全長400m日本一長い歩行者専用吊橋三島スカイウォークへ、富士山の姿も美しく眺望を楽しみながら渡ってきました。吊り橋の下に楕円形の木片が沢山落ちていますがこれは、「フワードロップ」という可愛い木製の花の種がついているらしいです。数年後にきれいなお花畑になるのでしょうか。

帰路に向かう車中でビンゴゲームを楽しみながら移動、沼津の干物センターでお土産を買って、一路東松山へ。集合時間に遅れることもなく、事故もなく無事帰ってこられた事は企画委員の一員としても思い出に残る修学旅行でした。

クラブ活動報告

英会話クラブ

下垣 慎吾

毎週木曜日 15:10～16:30 研修室1

① 先生1名、メンバー7名（OB3名、学生4名）卒業しても継続可能

② 先生：峰 慎一（みね しんいち）ニッ
クネーム：Mike。70歳で米国17年在住、
英語・スペイン語が堪能

③ 使用教材：NHKラジオテキスト「遠山
頭の英会話楽習」

木曜日の午後、峯先生を迎えて日本語と英語とのちゃんぽんで、わいわいがやがやおしゃべりをしています。会話は、楽しいです。昔や最近の話題、米国の習慣や考え方など色々なことを話したり、教わったりすることは頭の刺激になります。英語を通して新しい知識を知ることが、勉強になって楽しいです。老化遅延にも繋がります。

来年はラグビーワールドカップ、再来年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。町の中で外国人に話しかけられた時、戸惑わないで少しでも説明して東松山、そして日本のことを知ってもらいた



いですね。英語で話したい、少しでも話せるようになりたい初級から中級レベルの間で英会話クラブを構成しています。そして、先生はやさしく楽しい方です。

いつでも入部できる状況です。一緒におしゃべりしませんか。特に、女性は歓迎です。みんなでサポートします。

パソコンクラブ

加島 一彦

パソコンクラブの部員11名で14期生の方も講習の時間に合わせ参加していただいています。高柳哲雄先生はじめ講師の方々の指導をいただきながら資料に基づきワード・エクセルを主体とした演習課題を通していろいろな手法・使い方などの勉強を行っています。課題を完成させて行く過程でいろいろなコマンドの使い方など新たな発見があり、毎回「ああ、そうなんだ」と思うことが多々あり、パソコンクラブに入る前のパソコンの使い方方の理解は、限られた範囲であったことからいろいろと勉強をさせていただいています。

今まで課題として取り組んできた内容は、ワードを主体としたリーフレット・案内状やエクセルデータの差込みを使った資料作りなどです。また、昨年の学園祭では、部員が分担をして夏休みの講習時間を使って季節ごとのカレンダーを四苦八苦しながら作成した作品をみなさんに見ていただけだと思います。

また、今年も難しい課題になるかも知れませんがGIMP(ギンプ)による作品作りを夏休みの講習時間を含め使って作成をし、



学園祭での作品展示を行う予定にしていますのでご期待下さい。

パソコンクラブの活動は、講師の方々によりほぼマンツーマンに近い形での指導をして頂いてますが部員相互で不明な点をお互いに教え合う雰囲気もあり、全体の理解度をあげる形での活動を進められたらと思っています。そして、パソコンに興味を持

っている方がいましたら、毎週木曜日の15時より講習を行っていますので、覗いてみてください。

ウォーキングクラブ

仮屋 孝



季節感を肌で感じながらのウォーキングクラブも部員が徐々に増え29名の大所帯になりました。

共有する時間が長いので自然と会話が弾み、お互い親しくなれるのもこのウォーキングクラブならではだと思います。歩くことに自信のなかった部員も今では仲間と楽しみながらウォーキングしている姿に感動しています。

これまでの活動は「森林公園散策」を皮切りに「高坂・市民の森コース」「奥日光・戦場ヶ原コース」「館跡・嵐山溪谷コース」「芭蕉も愛した深川」「初春川越きらめき散策」「和紙の里・酒蔵見学」「巢鴨とげぬき地蔵尊・旧古河庭園」など遠方にも足を延ばしウォーキングを楽しみました。

中でも特に印象に残ったのは昨年の灼熱地獄の8月、都内の最高気温34度超えの日「JR青春18きっぷ」と路線バスを利用して実施した「奥日光・戦場ヶ原コース」、男体山を背景に広大な湿原の戦場ヶ原の木道を歩いた時(湯滝・龍頭の滝)、涼風が吹き抜け、まるで別天地にいるかのような心地よい気持ちにさせられました。その光景が今でも目に浮かびます。今年も、その季節がやってきます。何か良いプランはないか

と思案中です。

歩くことは骨が丈夫になり心臓の動きが活性化し血圧・コレステロール値が安定するなど健康にとっても良いです。

部員のほとんどが自宅近辺や市主催の月例ウォーキング等で基本的な健康作りをしているので、当クラブとしては従来型のウォーキングではないプチ観光と体験を兼ねた楽しみのある新しいタイプのウォーキングクラブとして進化していけたらと思っています。

山歩きの会

蓮 通玄

昨年の4月発足以来、1年を迎えました。昨年からは、低山主体に毎月一回の割合で山行を実行して、歩行時間も4〜5時間で無理のない計画で登山を楽しんできました。現在は、8〜12人の参加者です。

上高地から穂高連峰を見上げていた、室堂から立山連峰を眺めていた、登ってみていと思っていたが無理かもしれない、一緒に登ってくれる人がいない、どんな装備をしたらよいか分からない等、興味や関心があるが踏み切れない人に登山を楽しんでもらいたいという考えから始め、関心ある方



が集まりました。

5月には、甲武信ヶ岳に登りました。通常1泊2日で登るのですが、日帰り登山をして全員元気に下山しました。喜びと感激で大満足の1日でした。やればできるという自信を持ったと思います。

一生に一度は、富士山に登りたいという会員の希望に答えられると思います。関心のある方は、会員一同大歓迎です。

農園クラブ

山崎 俊夫

1年生7名、2年生2名、指導員としてOB3名。大学で提供していただいた農園で楽しく活動しています。全学年を通しての共同作業は昨年からはじめました。

一人5坪くらいを割り当て各自好きなものを育てています。農場は広いので、残りは共同作業で農作物を作っています。秋の学園祭には、出来上がった農作物を販売します。

5月末、季節はずれの暑さの中全員で作業をしました。ジャガイモ、ソラマメ、エシャロット等の収穫、サツマイモ、サトウキビ、カボチャ、キュウリ、スイカ等の植え付け、落花生の種まき、大変だけれど楽しい作業を過ご



ぎまで行いました。ジャガイモは大きなものが沢山採れました。成長、収穫が楽しみです。

また特別に、17期生(1年生のYさんが大きなトラクターに乗り参加され未使用の荒れた畑を一気に呵成に耕して下さいました。機械のスゴさに一同感心、感謝することしきり。

夜は顔合わせと、豊作祈願で賑やかに集会を行いました。天候も不安定で、心配していますが、農園クラブはそれなりに楽しく活動しています。
大きなスイカが出来るかな。



ゴルフ同好会

鮫島 純一

ゴルフは認知症の予防に役立つスポーツです。超高齢化社会の到来に朗報のゴルフは適度な運動と、打数を思い出すなど脳トレの効果、同伴競技者との会話など、3つの要素を一度に満たせるスポーツだと思います。

現在のメンバーは15名です。昨年7月より活動を開始し、小川町にあるアドニス小川カントリー倶楽部にて6回実施されま



した。アドニスではカートにコースナビがあり、残りの距離などが正確に表示されプレイヤーにとっては非常に強い味方となっています。何より全員のスコアを入力するシステムが導入されていて(リーダーボード)、ホールごとに参加者のスコアと順位が表示されて自然にやる気や競争心も上がってきます。しかし優勝とグロスの1位と

は別物で、新ペリア方式で集計していますので、誰にでも優勝のチャンスがあるということなんです。だからゴルフは楽しいのです。

プレイ終了後は汗を流してから美味しいコーヒートとケーキで歓談し優勝者とニアピン賞の発表を行います。これからはハンデ戦で行えるようにしていく予定です。ますます盛り上がりプレイできると思います。皆さんと和気あいあいとプレイを楽しんでこれからの健康維持、認知症予防にもつなげていけたら最高と思います。

まだまだ会員数が少ないため、ゴルフ経験者の方々の参加を待ちしています。どうぞよろしくお願い致します。

自由投稿

2度目のスペイン巡礼の旅

歴史・郷土学部

清水 邦夫





今年、2018年6月1日パリに着き高速鉄道とバスに乗り、巡礼スタートの村「サン・ジャン・ピエ・ド・ポー」に着きました。フランス側からピレネー山脈越えしスペインに入り西の聖地「サンチャゴ・デ・コンポステーラ」を目指してペダルを回す。そして、その先の最西端の岬まで足をのびす。昔、中世時代この地は生と死の境目となる所と考えられていました。

青い空、流れる白い雲、まあるい大地
 緑の草原の中を貫く一本の道
 雨でぬかるんだ赤土の道
 強風に吹かれて、つらかった広野

異国の地に居ながら、なぜか懐かしい。人との出会いそして別れ、巡礼の旅は人生と同じ旅と言われる。実践してみても分かる気がする。今でも、カミーノの楽しい思い出が蘇る。



編集後記



きらめき市民大学に入学して2学年の後半に突入し、課題研究・学園祭と忙しい時期に差し掛かっています。広報委員1名の欠員となりましたが16期生「広報誌 きらめき」3号を発行することが出来ました。

今回は、学園生活三大自然の一つである「修学旅行」が5月に行われ、楽しい思い出の記事が紙面を飾ることになりました。

また、表紙を1枚写真で被う方式により一層垢抜けたと思います。

いつもながら、原稿依頼に際しましては、快くお引き受けいただき厚くお礼申し上げます。引き続き宜しくお願い致します。

第16期生自治会 広報委員会

委員長	柳下 千賀子
編集長	高杉 信幸
副編集長	中畝 実
	大塚 弘子
委員	西村 晃
	鷺 雅子
	山崎 敏子
	萩野谷 文雄
オブザーバー	中山 富美枝
	二宮 健